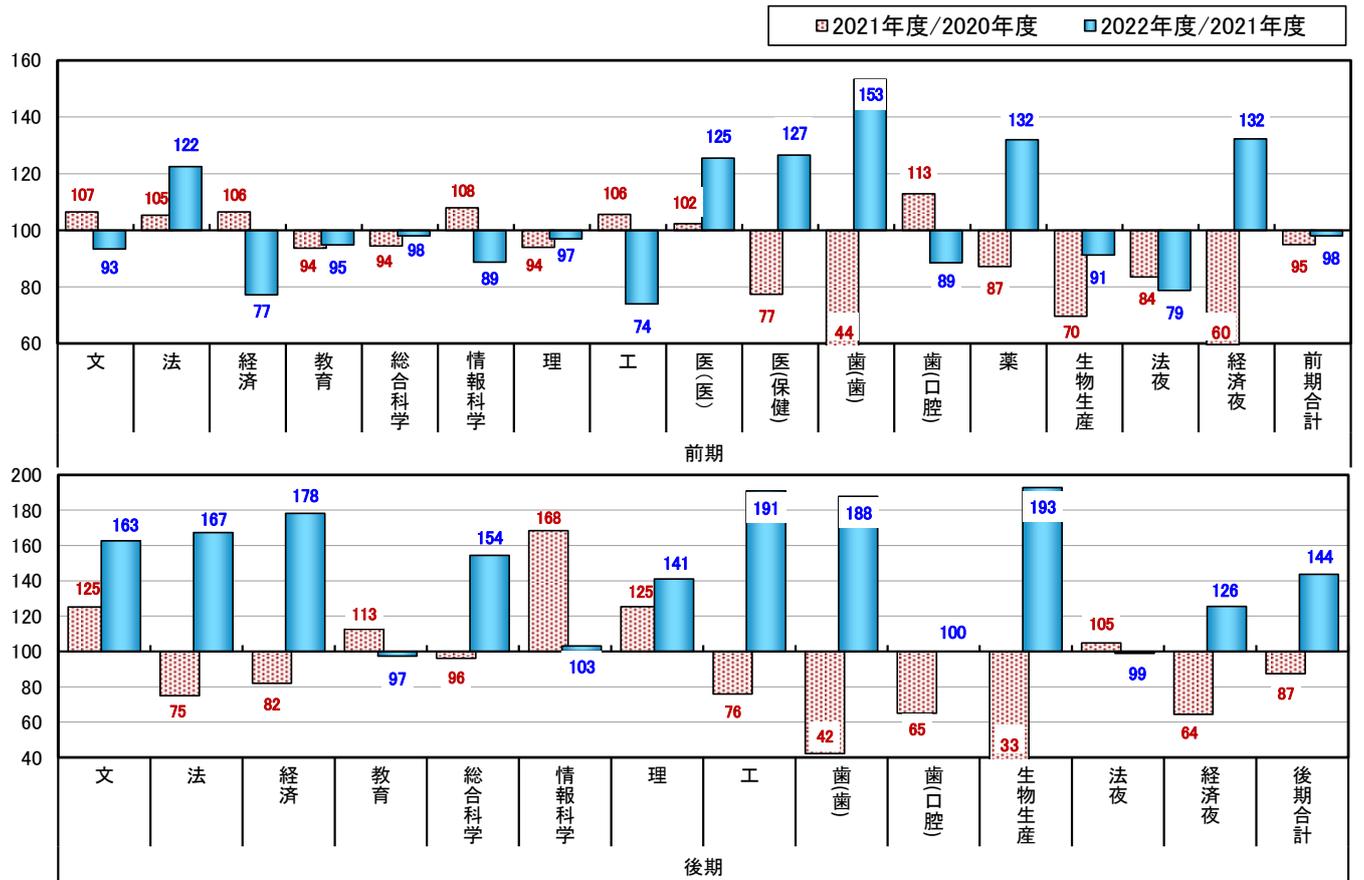


広島大：前期は微減、後期は前期最難関大からの併願増で大幅増加 前期：-80人 後期：+859人



主な入試変更点

選抜方法：医(保健/看護)〈前〉：文科系及び理科系で受験した者から、募集人員の約半数ずつを合格とする
 →まず文科系、理科系の受験者ともそれぞれ上位から20人ずつを合格とし、残りの枠は、文科系と理科系の受験者に合わせて点数の上位から順に合格とする
 (保健/作業療法)：文科系及び理科系で受験した者から、募集人員の約半数ずつを合格とする
 →文科系・理科系の区別なく総合点で判定

共通テスト：情報科学(情報科学)〈後〉…数2<600>+外<600>=総点<1,200>→数2<800>+外<400>=総点<1,200>
 歯(口腔健康科学/口腔工)〈前〉〈後〉…国+歴公+外+{(数2+理)or(数+理2)}
 →国+歴公+数2+理2+外

個別試験：教育(人間形成基礎/教育学系、心理学系)…国+外→(国or数or外)→2
 情報科学(情報科学・A型)〈前〉…数<600>+外<600>=総点<1,200>→数<800>+外<400>=総点<1,200>
 工(第三類)〈後〉…面<100>※勉学に対する意欲・志向についての質問並びに数学、化学の簡単な口頭試問を行い、科学的思考力、対応の仕方・態度を通して総合的に評価
 →面<50>※化学に関連する科学技術への関心や勉学に対する意欲・志向について質問し、その対応を通して適性を総合的に評価

COMMENT ※ () 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は前年度よりもコロナ禍の影響による移動敬遠傾向が緩和したことから他地区への流出もあって、80人(98)の微減。後期は共通テストの平均点ダウンの影響で、前期最難関大志願者の併願先として狙われて、859人(144)の大幅増加。学部別では、歯(147)、薬(132)、医(126)といったメディカル系が大幅増加、系統の人気が高い法(142)も大幅増加。なお、法夜、経済夜を除くと、前期は86人(98)の微減、後期は848人(146)の大幅増加。

- <前期日程>
- 文(93)は、やや減少で3年ぶりに減少。
 - 法(122)は、系統への高い人気に加えて、2023年度から東広島市の東広島キャンパスから広島市中区の東千田キャンパスへの移転効果もあって、大幅増加で2年連続増加。
 - 経済(77)は、大幅減少で、志願倍率も2.4倍→1.8倍と2倍台を下回わり、過去10年間で最も低倍率だった。
 - 教育(95)は、やや減少で3年連続減少。系別では、(言語文化教育)(117)は大幅増加で5年ぶりに増加、(科学文化教育)(106)はやや増加で3年ぶりに増加。一方で、(学校教育)(86)、(人間形成基礎)(87)はいずれも減少、(生涯活動教育)(93)はやや減少で2015年度以降、前年度の反動による増減が継続。
 - 総合科学(98)は、微減だが3年連続減少。学科別では、(国際共創)(110)は増加で4年ぶりに増加だが、(総合科学)(94)はやや減少で3年連続減少。

- 情報科学(89)は、共通テストの平均点ダウンの中で個別試験の数学配点が重くなり個別逆転の可能性が高くなったが、前年度増加の反動の影響が大きく減少。
- 理(97)は、やや減少で2年連続減少。学科別では、(生物科学)(130)は前年度半減以下の減少の反動で大幅増加、(物理)(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(化学)(115)も大幅増加で2年連続増加。一方で、(地球惑星システム)(46)は前年度倍増以上の激増の反動で半減以下の大幅減少、(数学)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
- 工(74)は、大幅減少で2018年度に募集単位を変更後初めて志願者数が700人を下回った。募集単位別では、入学時に4つの類に所属せずに、1年次前期終了時点で成績と希望によって各類に配属される(工学特別)(37)は前年度倍増以上の激増の反動で激減。類別募集では、(第四類)(129)は前年度大幅減少の反動で大幅増加だが、その他はいずれも大幅減少で、4つの類のいずれも前年度の反動で増減。
- 医(医)(125)は、大幅増加で2年連続増加、志願者数は2015年度以来の600人を上回った。
- 医(保健)(127)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。3つの専攻のいずれも増加。募集単位別では、(保健/看護(文科系)(94)はやや減少、(保健/理学療法(文科系))(100)は前年度並で、その他はいずれも大幅増加。
- 歯(歯)(153)は、前年度半減以下の減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.3倍→3.5倍へアップ。それでも、過去10年間で前年度に次ぐ2番目の低倍率。
- 歯(口腔)(89)は、前年度6年ぶりに増加したが、反動で減少し、志願者数は2020年度と同人数。専攻別では、(口腔工)(100)は前年度並、(口腔保健)(82)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 薬(132)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、いずれも大幅増加で、(薬)(134)は大幅増加で2年連続増加、(薬科学)(124)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 生物生産(91)は、減少で2年連続減少。志願者数が100人を下回り、志願倍率も1.5倍を下回った。

<後期日程>

- 文(163)は、2年連続大幅増加。志願倍率も6.7倍→10.9倍にアップ。
- 法(167)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も6.7倍→11.2倍にアップ。
- 経済(178)は、前年度大幅減少の反動で80%近い激増。募集単位別では、(文科系)(208)は倍増以上の激増、(理科系)(36)は前年度7倍以上激増の反動で激減、2019年度の新設翌年から極端な増減が継続。
- 教育(97)は、前年度5年ぶりに増加したが、再びやや減少。系別では(学校教育)(107)、(生涯活動教育)(105)はいずれもやや増加。一方で、(科学文化教育)(78)は大幅減少、(人間形成基礎)(91)は減少。
- 総合科学(154)は、2年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も8.2倍→12.6倍へアップ。
- 情報科学(103)は、やや増加。志願者数は2018年度に新設以降で最多。
- 理(141)は、2年連続大幅増加。学科別では、(地球惑星システム)(308)は前年度大幅減少の反動で3倍以上の激増、(物理)(177)、(化学)(148)は大幅増加。(数学)(98)は前年度大幅増加の反動は小さく前年度並。
- 工(191)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願者数は2018年度に募集単位を変更後最多。募集単位別では、いずれも大幅増加で、特に(第二類)(307)は3倍以上の激増。
- 歯(歯)(188)は、前年度半減以下の激減の反動で激増。志願倍率も8.8倍→16.5倍へアップ。
- 歯(口腔)(100)は、前年度大幅減少の反動はなく前年と同人数。
- 生物生産(193)は、2年連続減少の反動で倍増近い激増。志願倍率も4.2倍→8.1倍へアップ。